蒲島　郁夫 熊本県知事

# 県内首長が一挙集結 〝マニフェスト会談〟

寄って、見て、聞いてはいよ！マニフェストまちづくり大会

第３回御船町マニフェストまちづくり大会が９月５日、
カルチャーセンターで開催され、町内外から約400人が傾聴しました。
今大会には、県政の舵取り役である蒲島郁夫熊本県知事をはじめ、
大住清昭合志市長、北里耕亮小国町長を迎えて、
マニフェスト先進自治体の行政運営や事例が紹介されました。
ここでは、パネルディスカッションを整理しながら、
蒲島県知事が語る「マニフェストと県政」をお伝えします。

大住 清昭 合志市長

おおすみ・きよあき

熊本商科大学商学部卒。西合志村役場入庁。西合志町議会議員。西合志町長就任。合志市長就任

## 「民主主義とは何か」「市民が主役とは何か」

**神吉**　マニフェストを掲げ実行に移し、（市町）職員の抵抗感はなかったのか。あるいは協力をどのようにつくっていったのか。

**北里**　（職員の）抵抗感は無かったが、あまり前向きな動きも無かった。（まちづくりは）チームワークであるため（職員の）理解を得て、随分（役場も）変わったと思う。今までの（行政の）習慣や慣わしは当たり前では無かった部分が多かったと言える。前向きに物事を考えるようになって、当たり前のことを当たり前にやれるようになった。

**山本**　今思えば、職員は非常に動いているが、最初はそうではなかった。「訳あり行動」と言って、理由がないと人間は動けないので、マニフェストを理解する必要がある。今までの行政の仕組みを変えることに抵抗があったと言える。職員が意識を持って行動に移すことで、自信がつき、「またやろう」という意欲がわいてくる、まさに人材育成である。マニフェスト型の素晴らしいところは、目標を掲げて、共有していくなかで、気づきが生まれることである。

**大住**　職員との（意識）共有化が必要であり、マニフェストとは何かを私なりに（職員に）説得をしたが、否定的な意見もあった。マニフェストは約束であり、民主主義のルール。「民主主義とは何か」「市民が主役とは何か」を職員が少しでも理解できたかと思う。

山本 孝二 御船町長

おおすみ・きよあき

熊本商科大学商学部卒。西合志村役場入庁。西合志町議会議員。西合志町長就任。合志市長就任

## 「このまちをどうしたい」と思うことが基本である

**神吉**　議会との関係をどう作っていくべきであるか。

**大住**　マニフェストの冊子を議員に配り、市議会の一般質問で、まちづくりの論点となった。

**北里**　マニフェストが要因となって、議論の活性化になったと思う。

**山本**　3者（町民、行政、議会）のバランスがよくなってきている。その理由は情報公開である。情報公開をしないと議論できない。

**神吉**　議会とマニフェストの役割はなにか。

**吉川**　議員は、首長のマニフェストが出てくることによって、自分達の存在感が薄くなって危機感がある。それによって、「自分達で何とかしなければならない」という考えから活性化してくる。議会が新しい道を模索せざるを得なくなったという意味では、すごく刺激されるようになったことには間違いない。

**神吉**　マニフェストは検証可能な公約と言われている。マニフェストの評価をするときに「誰が」「どのように」やったらいいのか。

**山本**　住民に入ってもらって検証を行った。評価検証は取り組むこと自体が成果である。次回もぜひ（町民に）参加してもらって、しっかりチェックしてもらいたいと思う。

**大住**　担当部署で、逐一進ちょく状況を点検しているが、評価までは行っていない。部内での評価と併せて、市民代表の政策審議会でマニフェストの検証と評価を考えており、来年3月にマニフェスト検証大会を検討している。

**北里**　まだ、検証は行っていない。次にマニフェストを作る機会があれば、数値を入れて、必ず検証をしなければならないようにチャレンジをしたいと考える。

**神吉**　マニフェストサイクルのなかで、町民がどうやって政策に関わっていくのか。

**大住**　（合志市）総合計画にマニフェストを入れ込んだ。総合計画には市民の代表20名で政策審議会を作り論議している。また、ホームページでも必ず公開し、議会にもその都度提案して、市民もある程度は理解できていると思う。

神吉 信之 コーディネーター

**北里**　マニフェストは「自分がこのまちをどうしたい」と思うことが基本である。対話、リーダーシップのバランスをどう作っていくかが重要。町民がどのようなことを考えているかを察しながらマニフェストをうまく活用していきたいと思う。

**山本**　住民と話すことが基本である。日常的に行政組織や各種機関と話して課題を出してもらう。それを常日ごろから習慣的に捉える感覚を持っていれば毎日が改善の場となる。

**吉川**　マニフェストは民主主義の重要なツール（道具）。マニフェストの評価検証は約束されたことが果たされたかをみる自己チェック要素が強く最低限の民主主義である。

（中文敬称略）

## マニフェスト検証は「最低限の民主主義」

よしかわ・とみお

東京大学経済学部卒。東京都庁職員。（財）東京市政調査会。（財）地方自治総合研究所。県立広島大学学長補佐経営情報学部教授

吉川 富夫 広島大学教授

かばしま・いくお

米国ネブラスカ大学農学部卒。ハーバード大学大学院修了（政治経済学博士）。筑波大学教授を経て、東京大学法学部教授に就任。熊本県知事就任

## 「マニフェストは他の意向に左右されない」「マニフェストの説明責任と引き返す勇気」

自分自身でマニフェストをつくり、マニフェストを検証し、マニフェストに沿って県政を行っているときに、マニフェストのメリットとデメリットがあることに気づいた。

メリットは、❶マニフェストがあると県政と政治を（就任初日から）素早く進めることができる❷マニフェストを選挙期間中に発表し、県庁職員が読んでいるため、県庁内に私の考えが浸透している❸マニフェストに書いてあることは、必ず実行することが必要であり、ほかの意向に左右されない。判断の事由がマニフェストに沿って行われ、誘引のメリットがある。

マニフェストをやって難しいことがある。❶外部要因である大不況と大恐慌。想定外のことであり考えていなかったためで、外部要因をどのように考慮するかは、政治家になって説明責任があり、納得してくれるような説明責任を果たさなければならないと思う❷マニフェストが全知全能ではない。出来ないことがわかった時に、やってはいけないことがわかった時に引き返す勇気を政治家は持たなければならない。（講演抜粋）

北里 耕亮 小国町長

きたざと・こうすけ

玉川大学文学部卒。小国町議会議員。小国町森林組合長。小国町長就任